

第9回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会 議事概要

日時	2025年11月10日(月) 10時00分～11時30分
場所	町田市庁舎10階 10-4会議室
出席者	<p>【委員】(敬称略)</p> <p>山口 有次(桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授)</p> <p>長尾 洋子(和光大学表現学部総合文化学科教授)</p> <p>藤枝 由美子(玉川大学芸術学部アート・デザイン学科教授)</p> <p>宗田 隆由(一般財団法人町田市文化・国際交流財団)</p> <p>高野 宗佳(一般社団法人町田市文化協会)</p> <p>佐藤 正志(町田商工会議所)</p> <p>高梨 光之(一般社団法人町田市観光コンベンション協会)</p> <p>大山 茂登(木曾中学校長)</p> <p>百田 明弘(相原小学校校長)</p> <p>高橋 倫正(町田市郷土芸能協会)</p> <p>(以上10名)</p> <p>【事務局】</p> <p>文化振興課 山田課長、山岸</p> <p>株式会社文化科学研究所(コンサル) 山名、安田、菊谷(オンライン参加)</p> <p>【傍聴人】</p> <p>なし</p>
議事内容	<p>1 前回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回懇談会の振り返り ・市民意見募集の結果 <p>2 計画素案の検討</p> <p>(仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画の原案について</p>
配布資料	<p>00_レジュメ_町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会</p> <p>01_資料1_第8回懇談会議事概要_0630</p> <p>02_資料2_町田市文化芸術まちづくり計画_市民意見募集実施結果</p> <p>03_資料3_(仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画原案</p>

開会

○事務局(山田課長)

本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

第9回懇談会は最後の策定懇談会となります。前回までのご指摘を踏まえ加筆・修正した素案について、8月の経営会議にて承認を得た後、9月から10月にかけて行った市民意見募集を受け、原案を作成いたしました。また、10月末に行った庁内検討委員会でもご意見をいただいたので、本日皆さまからのご意見もいただきたく思います。それでは、ここからの進行は、山口委員長に委ねたいと思います。山口委員長、よろしくお願いいたします。

○山口委員長

それでは、「1 前回の振り返り」について、事務局からの説明をお願いします。

1 前回の振り返り

(1) 第8回懇談会の振り返り

(01_資料1_第8回懇談会議事概要_0630) について事務局から説明)

○山口委員長

以上についてご意見・ご質問ありますでしょうか。

<ご意見>

なし

2 計画素案の検討

(1) (仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画の素案について

(02_資料 2_町田市文化芸術まちづくり計画_市民意見募集実施結果

03_資料 3_ (仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画原案)

以上 2 つの資料を事務局から説明。

○山口委員長

以上についてご意見・ご質問ありますでしょうか。

<質疑>

○宗田委員

12、13 ページのまちのイメージ図やコラム等、作成中のものがありますが、いづれ内容を確認できますか。

○事務局

まちのイメージ図は、町田市在住のイラストレーターである中垣ゆたかさんに一枚絵を依頼しており、1月に完成する見込みです。コラムについても、現在関係団体をお願いしている最中です。

○宗田委員

計画で使用している専門用語や表現について、用語集は作成するのでしょうか。

○事務局

解説が必要な用語は抜き出しているところですが、その数が少なければ計画の下部ページに小さく記載し、数が多ければ資料編の中に用語解説を作成する予定です。

○高梨委員

中垣ゆたかさんにイラストを依頼しているという話がありましたが、この計画の印刷部数の量やそれをどこに配布・配置するのか、表紙のデザインは文化芸術に親しみのない人にも興味を持ってもらえるようなものにする予定なのか、教えてください。

○事務局

計画のデザインについて、表紙は現在デザイナーをいれて話し合っています。いまご覧いただいている計画は事務局でデザインを入れていますが、デザイナーには、行政色の強いデザインではなく、

手に取ってもらえる親しみやすいデザインにしてほしいと依頼しています。計画の策定後は、PDFデータを掲載するため、多くはありませんが200部ほど冊子を印刷する予定で、関連機関の方々にもお配りできたらと思っています。

また、いま製作途中ですが、計画の概要版として中垣ゆたかさんに中高生を対象とした絵本を描いていただく予定です。計画の内容をまとめ、手に取りやすいようなイラストや筋書にしていますので、市内の小中学校にはこちらを配布したいと考えております。

○佐藤委員

市民意見募集の中で、「幼少期の頃からの経験が大切」や「小学校等の教育機関との連携が必要」といった意見がありますが、計画原案に盛り込んだ要素や強調した部分はありますか。

○事務局

10ページで小・中学校に期待することの部分を肉付けし、32ページでは、きっかけをつくることややはり大事であると考えていますので、幅広い対象となりますが子どもも含み実施例として記載しています。さらに、41ページの「未来につなぐ」という部分では、直接子どもの体験を増やし育んでいくことを記載しています。具体的な取り組みとしては、今後意識して考えていきたいと思っています。

○佐藤委員

41ページは、前回と比較してこの文言が入っているということですか。

10ページの小・中学校に関する項目も、新しく書き換えたということでしょうか。

○事務局

前は「する体験を増やす」のみの記載でしたが「子どもたち」と文言を加えています。10ページについては、1つ目の項目は前回も採用していたもので、2つ目から4つ目の項目を新しく書き加えました。

○山口委員長

子どもの視点ということで、百田委員のご意見はいかがでしょうか。

○百田委員

市民のご意見の中でも子どもについての意見が多くあると感じていました。子どもに関する記載を追加したとのことで期待感を持てるものになったと思いますが、実際に取り組みとして進めていければ良いと思います。

○大山委員

子どもたちからすれば対象は自分たちですので、「この活動がこの計画に則って行われているのだな」と実感できるよう進めていただきたいと思います。市民のご意見で（校内）体験活動に期待を寄せているものもあったかと思いますが、計画によって体験でき、育てられているものであると子どもたちにダイレクトに感じてもらえれば、それが未来につながっていくと思いますので、これからも計画

どおりの実行をよろしく願いいたします。

○高野委員

茶道・華道体験を通じて、活動の普及を20年前から草の根的に行っていますが、それがなかなか広がっていかないと感じていました。市の支援等がないからであると思っていましたが、近頃では本計画によって市でも文化芸術に力をいれているので、と言えるようになってきました。これが現実化していくには、まだまだこれからだと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。

○山口委員長

高橋委員のご意見はいかがでしょうか。

○高橋委員

地域の民族芸能について、課題とそれに対応した取組みについて記載があればいいなと思いました。これから継承し保存していくというのが大変な時代になりましたので、これをきっかけに何か取り組んでいく人が増えるといいと思っていますので、具体的に記載ないのが残念です。

○藤枝委員

市民意見募集について、人数は想定より少なかったですが、その中でも丁寧に読み込んでいただいておりますという印象を受けました。また、これまで作成してきた素案が大きく外れておらず、概ね満足いただけているようで安心しました。

本計画の作成を始めた3年前は生成AIの印象は大きくなかったかもしれませんが、これからの時代においては影響が大きくなり生活が変わってくると思います。その中で、文化芸術における人間のクリエイティビティは重要ですので、しっかりサポートし、AIではできない体験の機会を増やすこと、自らの頭で考える力を延ばせるような未来像が描ける計画になってよかったなと思っています。

これからデザイナーの手が入るとのことですが、施策の色分けをする部分等これまでの色合いを踏襲していただき、色が少しずれている箇所は調整していただければと思います。

また、本計画をどのように広報していくのか、いかに市民の方に理解してもらえるようにするかが重要になってくると思います。ロゴマークを作成したり、Smile-link projectを強調したり、統一感ができるよう視覚的に分かるようなものがあるといいと思います。

○山口委員長

色については、例えば31ページから34ページの方針1についての記載で、他の方針の色が使用されている部分ご指摘の点でしょうか。

○藤枝委員

そうですね。例えばですが、施策ごとに使用されているイメージカラーが微妙に違う色になっています。また、35ページから38ページまでの年代の図に使用されているピンク色は、方針1で使用されているピンク色と同じものであり、こういった色の統一でズレが生じているものがありますので、デザイナーの方とよく相談してほしいと思います。

○長尾委員

予定の計画策定期間よりも長く検討を重ねてきたため、かなり練られてきたと感じました。文化芸術のまちづくりという文脈に当てはめられる既存事業を意識的にどう育てていくか、例えば「芹ヶ谷公園」芸術の杜”プロジェクトのような現在進行形の取り組み・事業を再認識でき、原案として良い土台ができたと思っています。

また、行政の計画ですと実施例や事業例という言葉を用いることが多く、これは対象となっている人の具体的な行動が、どのように展開されていくかを示すものかと思います。本計画では、行動例という言葉で表されていて、興味深いと感じるとともに、これが分かりやすさや指標という部分に繋がってくるのではないかと思います。

○山口委員長

前向きな評価ということですね。

冒頭の9ページをシンプルにしたのは分かりやすさの観点から見ると良いと思います。ただ、色々な解釈が有り得るという意味では、どうしても文章を削ると消えてしまう意味がありますので、説明にもあったとおり、注釈をつける等、文化の範囲や対象に注釈で外国人や、障がいのある方、病気のある方、子ども、高齢者、プロ・アマチュアの方、バーチャルやリアル等と付け加えてもいいかと思っています。

○宗田委員

36ページの取組み③で新たなホールの整備を進めることが記載されていますが、2031年時点でまだ調整中であるように表現されています。これだと何年にできるのかイメージがわからないので、「何年に完成を目指します」のような書き方や規模感を記載する等、もう少し期待感を持たせるものでもいいのではないのでしょうか。現時点ではそういった書き方は難しいと思いますが、文化は見えるものでないので、指標で表してもなかなか実感できません。

18ページの現状で小規模ホールが充実していることに触れていますが、これだと新たなホールはどのようなものを作るのか想定できません。規模感について、例えば何千人規模の大規模ホールの整備を進めます、というように具体的に書いてもいいと考えます。そうすると、みる、触れるという他の施策でも規模にあった色々な体験ができることに影響してくるかと思います。

○事務局

連携して取り組んでいる都市づくり部と確認した結果、整備する年数は各業者との調整等、流動的、繊細な部分がありますので明言することが難しい状況であると考えています。

○宗田委員

私は普段市民ホールやポプリホールの管理をしていますが、ホール整備決定までに10年、着手してから完成まで10年、合計20年も既存のホールがもたないと思います。

○高梨委員

32ページでは実施例、37ページでは事業例と使い分けていますが、何か意図があるのでしょうか

か。また、事務局からの説明を聞きながら本計画を見ていると、方針4が手段的な意味を持ち方針1～3を縦串していることが分かるため、方針・施策の全てのページに記載されている意図が理解できます。方針4は行動例として重要なものであると改めて感じましたので、概要版でもしっかりと表現されているといいと思います。

○事務局

32ページのみ実施例としているのは、事業例として他ページでそろえることもできると思いますが、取組みとしては1ページ目に載るものでありイメージしやすいような既存のものであった方がいだろうと考えたからです。また、来場者からも好評であり、成功した実証事業を掲載したいという想いもあります。

○宗田委員

42ページについて、子どもたちの文化芸術のする体験を増やすという点で、鶴川ショートムービーコンテストが取り上げられています。これは怪獣映画のワークショップとして実行委員会が主催していますが、大人が台本や舞台をそろえ子どもたちがそれを撮影するというものです。しかし、実際あと数年継続できるのか分からないのが正直なところですので、違う例があるならそちらを掲載したほうがいいのかもかもしれません。

○百田委員

新しく始める取組みをメインに計画に記載していますが、今やっているものをなくさないということにも取り組んでほしいと思います。例えば、小学校や中学校ですと連合音楽会は、毎年市民ホールで行っていますが予算の関係で継続が難しいかもしれません。また、市民意見募集でもあったとおり、保護者の方から観に来たいという声を毎年たくさんいただいています。キャパシティがないため現状は子どもたちのみで行っています。新たなホールの整備にも繋がりますが、こういったときに大規模ホールがあるといいなと感じています。新たな取組みを進め、既存のものがなくなってしまうのは本末転倒であるかと思いますので、ぜひ意識していただきたいです。

○事務局（山田課長）

関連事業の項目に記載できればと思います。

○藤枝委員

29ページの図について、図が小さいのか分かりづらいのではないのでしょうか。29ページの真ん中ある、30ページの図の縮小部分はページの枠線を入れたり、ページが見切れている部分は波線を入れたり、その下の32ページを縮小したものが挿入されている部分も同様に枠線を入れる等して工夫していただきたく思います。細かいことにはなりますが、その左側にもあるグレーの六角形で囲われた説明部分についても、矢印のようにも見えるので、デザイナーの方と図形の整理もされるといいと思います。

○長尾委員

郊外都市であり、乗降客数が多いという町田の特色を十分に踏まえた原案になってきたと思いま

す。ただ、本学の学生を見ていると、乗降客数が多いことに対して乗り換えるだけで、まちに出て色々楽しむ、活動するということをあまりしていないように見受けられます。文化施設もたくさんありますが、知らなかったり利用していなかったり、また、市民文学館や国際版画美術館を学生に紹介していますが、なかなか浸透していかないと感じています。

高校生や大学生等若い方に、より文化芸術に親しみを持ってもらいたいと考え、近年注目されているのが文化芸術の場としての緑地かと思います。町田市も緑が豊富である公園を宣伝してきたと思いますが、改めて「文化芸術」「身近に体験できる」という部分を強調できるよう、積極的に活性化していければいいのではないかと思います。

多様性について、原案の中ではかなりシンプルになっており注釈をつけるということですが、現場での判断・配慮が求められると思いますので、それに対応できるような計画の推進が必要であると思いました。

また、利用を重ねていくこと、利用者同士の交流、組織レベルで連携を続けていくというサイクルの中で情報が広まっていくものがあると思いますので、計画を推進しながら経験の蓄積、共有、活用を図っていければより豊かなものが出来上がると思います。

○山口委員長

「共に創る」で大学も触れていますが、対象の注釈についても小中高大学の重要性を鑑み、記載していただけたらと思います。さらに、私も視覚障がい者の方と研究をしていますが、視覚障がいがある方のアートはすごく難しいと感じています。そういった意味でも、全ての、色々な方についての配慮がされているような注釈の記載をぜひお願いします。

○高橋委員

37ページの活動の場の充実の取組みについて、公共空間等でのアーティスト活動ができるようにと書いていますが、アーティストだけではなく、文化芸術に関わる色々な団体・活動している人が含まれると思いますが、限定するような記載をしていいのでしょうか。

○山口委員長

公共空間等であるとプロのアーティストを想定していますが、それ以外の部分では対象を幅広く捉えていますので、そういったところで解釈していただければと思います。

○事務局

36ページの取組み④で練習の場や制作の場を増やすことを記載しているように、対象について幅広く想定しており、誰かを排除するような計画としていませんのでご理解いただければと思います。

○長尾委員

「アーティスト」は日常的に用いられるものと職業的な意味合いが強くなってしまっていますが、ここで言う「アーティスト」とは職業的なものを想定しているわけではないですね。アートやパフォーマンス、民俗芸能等そういった活動に携わる方たちも含まれると思いますので、それをうまく表現できるようになるとよいと思います。

○山口委員長

注釈でアーティストの解釈をプロレベルからアマチュアレベルまで、多段階にあると示してもいいかもしれません。

○長尾委員

生活の中に埋め込まれた文化芸術活動であるという観点でいいますと、皆がアーティストであるという考え方ですよね。

○事務局（山田課長）

注釈等でわかりやすい表現ができるよう工夫していきたいと思います。

○山口委員長

それでは時間となりましたので、今回の懇談会を終わりたいと思います。皆様のご協力のおかげで回を追うごとに良い計画になり、今回の指摘を踏まえ修正を加えていただき、完成を期待しております。

○事務局（山田課長）

長きに渡りご支援、ご意見いただきありがとうございました。また、来年度からは、推進委員会として年に1回程度計画の推進に関して検討していければと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。